

## 市場に対する信頼の回復に向けた当取引所の取組みについて

平成18年2月6日  
株式会社東京証券取引所

当取引所では、昨年11月以来、一連のシステムの不具合などに起因する混乱により、投資者の方々をはじめとして多くの市場関係者の皆様に御迷惑をお掛けいたしました。また、それを受け、昨年12月14日には金融庁より証券取引法第153条の規定に基づく業務改善命令を受けるに至り、1月31日に金融庁に対し業務改善報告書を提出いたしました。

当取引所の開設する市場は公共性の高い社会インフラの一つであり、その円滑で安定的な運営を支えるシステムに生じたこれら一連の事態は、当取引所はもとより、当取引所の開設する市場に対する投資者の信頼を揺るがしかねない、極めて深刻なものであると強く認識しております。

当取引所としましては、「高い信頼性と豊かな流動性の確保」という市場開設者に課せられた基本命題に立ち帰り、これら一連の事態によって傷ついた市場に対する信頼を回復することを経営の最重要課題と位置づけて、全力で取り組むことといたしました。

具体的な取組み内容の骨子は以下のとおりであります。

- 一、システム障害については、その原因究明、システムの一斉点検、マニュアルの総点検など、考え得る限りの徹底した再発防止策を講じます。
- 一、万が一システム障害が発生した場合や異常注文が発注された場合などにおいて、市場の混乱を防止するための迅速な措置を講じられるよう、市場監理の責任・人員体制などにつきまして抜本的な見直しを実施いたしました。また、異常注文の抽出、明らかに誤発注と認められる注文を受け付けないとするなどのシステム対応を図ります
- 一、最近の売買高、注文件数、約定件数の急激な増加に対応するため、売買システムをはじめとする各システムの能力増強を速やかに実施します。同時に、これまで採用してきたシステム設計の基本方針を抜本的に見直した次世代のシステムの構想を取り纏めるなど、取引所市場を利用するユーザー本位の視点から、システム面でより高い安定性、堅牢性、高速性、柔軟性及び拡張性を追求します。

一．システム全体の円滑な運営を確保する観点から、外部専門家を招聘してIT全体を統括する「CIO (Chief Information Officer)」を選任しました。今後、新CIOの下、取引所のシステム戦略、ITガバナンスの全体について全面的に見直しを実施します。

一．システムの開発・運用や市場運営を的確に遂行できる人材の育成など、人的基盤の充実に努めます。

一．以上の点を含め、現在策定の作業を進めている「新中期経営計画」におきまして、システム投資計画について、バックアップ体制の在り方を含め全体的な見直しを実施します。具体的には今後3年間で500億円程度の投資を行うことを検討しております。

繰り返しになりますが、投資者に取引の機会を安定的に提供することが市場開設者としての東証の責務の根幹にあることを役員並びに社員一同強く再認識いたします。

その上で、今後、二度とこのような事態を引き起こさないのはもちろんのこと、市場利用者の視点に立って市場運営の改善を重ねることにより、市場の信頼回復に努める所存ですので、何卒ご理解・ご支援たまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

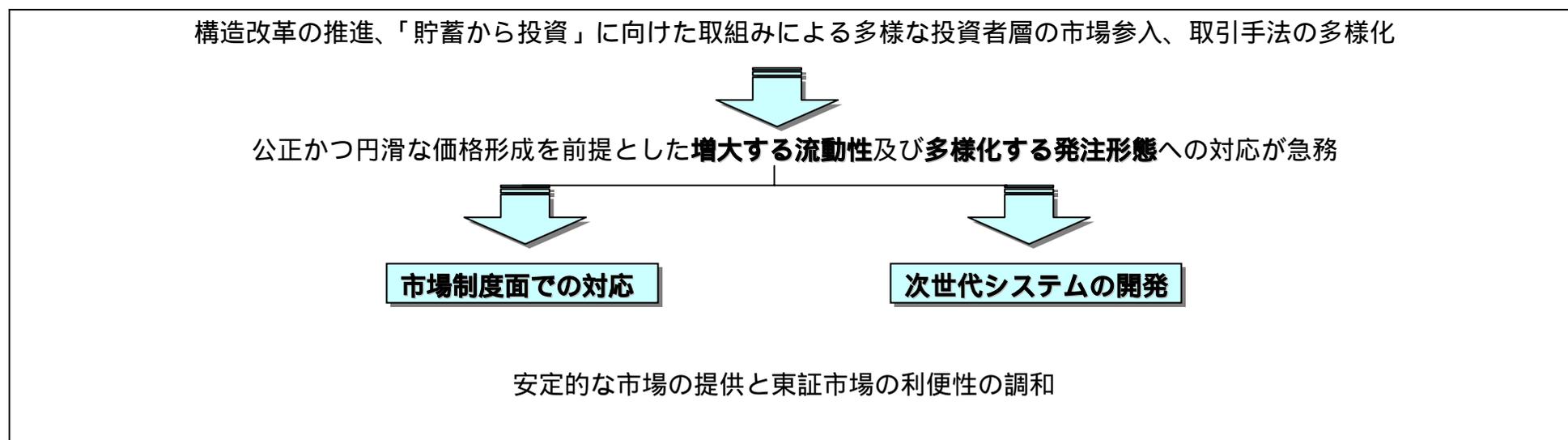
以 上

# 市場機能の再構築に向けて

平成18年2月6日  
株式会社東京証券取引所

私たちは、東証市場への信頼を回復・向上させ、ニューヨーク、ロンドンと並ぶ真の国際市場となるため、新たな市場制度を確立するとともに次世代システムを開発することによって市場機能を再構築する必要があると考えます。

## 市場構造の変革



## 市場制度面の課題

- ▶ **市場構造の変革に対応した合理的な取引ルールの再構築**
- ▶ **発注形態の多様化・細分化などを踏まえた取引所取引の費用負担のあり方**
- ▶ **売買単位の見直し、バックアップ体制の確立、誤発注への対応**
- ▶ **外国企業による市場機能の活用促進**

## 次世代システムの開発のポイント

### 安定性

突発的な売買高の急増時においても安定的な稼働を実現

注文処理、約定処理とも国際的にみて遜色のないキャパシティを確保  
取引ルールの合理化によるシステムの簡素化

### 堅牢性

異常事態の発生時にも継続的な稼働を確保

異常注文への対応、天災地変・テロなどの発生に備えたバックアップ体制の再構築

### 高速性

取引ルールの合理化などにより高速処理を実現

世界最高水準の高速レスポンスを確保

### 柔軟性

新商品の上場に迅速に対応

金融商品取引法（投資サービス法）の施行を睨み、上場商品の多様化に迅速に対応

### 拡張性

長期的な流動性の増大等に的確に対応

十分な拡張余力の確保と短期間での能力増強を実現

約定処理に係る比較表(公表・報道ベース)

	2005年1日平均実績値(A)	一日当たりのキャパシティ(B)	比率(B/A)	【参考】一日平均売買代金比較 (2005年・東証を1とした場合)	備 考
NYSE	482 万件	2,000-2,500万件*(1)	4.1-5.1倍	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 約定件数の約5倍*(4)</li> <li>・ 取引量の4倍程度*(5)</li> <li>・ 売買件数の2倍以上*(6)</li> </ul>
		2,100万件*(2)(3)	4.3倍		
ロンドン	26 万件	1,000万件超*(2)(3)	38倍超	1.2	
東証	192万件	500万件【注】	2.6倍	1.0	

【注】

約定後に清算を行うシステムのキャパシティ。

【出典】

\* (1)平成18年1月27日付 読売新聞記事

\* (2)平成18年1月20日付 日本経済新聞記事

\* (3)平成18年1月25日付 フジサンケイビジネスアイ記事

\* (4)平成18年1月23日付 読売新聞記事

\* (5)平成18年1月20日 朝日新聞記事

\* (6)平成18年1月22日 日本経済新聞記事

### 欧米主要取引所の売買システムのレスポンスについて(ヒアリング結果)

	入力保証又はそれに類似するもの(ACK)	板(ブック)登録通知
NYSE	0.12 ~ 0.57 秒 程度	(該当無し)
ロンドン	(該当無し)	0.07 ~ 0.68 秒 程度
東 証	0.15 ~ 0.5秒程度 (但し、注文が集中する局面では最大15秒程度)	4 ~ 5秒程度 (但し、注文が集中する局面では最大180秒程度)

海外市場の数値は、当取引所が各市場の取引参加者に対してヒアリングを実施して得た参考数値である。

東証の数値は、最も取引参加者寄りの地点で当取引所が計測した数値である。

Nasdaqを構成する取引システム(INET)の入力保証(ACK)は、0.03 ~ 0.05秒程度である。